

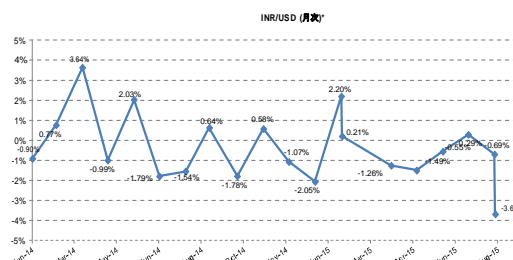
## 1年間のBRICS業績比較\*

インドのSENSEXはBRICSで2位に(1年間)



降順で表示(2014年8月31日~2015年8月31日): SHCOMP(上海総合指数)、INDXCF(MICEX モスクワ証券取引指数)、BSE SENSEX(ボンベイ証券取引所)、IBOVSPA(ブラジルサンパウロ証券取引所)

## INR/USD チャート(2014年1月~2015年8月)\*\*



\* 出展: Bloomberg

\*\* S&P

## ムーディーズは、インドの経済力を「高い」と評価

ムーディーズは、インドの経済力を格付け対象としている他の全てのソブリン債と比較して「高い(+)」と評価した。これは、インドの経済規模、成長率、継続的に経済成長への強い後押しがあるとの期待に基づいた評価である。

## 最低代替税(MAT)は外国ポートフォリオ投資家(FPI)には非適用

インド政府は高級委員会(HLC)(A.P.シャー判事が委員長を務める直接税関連事項に関する委員会、FPIへのMAT課税を検討するために構成された)の報告書を受け入れ、所得税法を適切に改正することを決めた。この改正で政府は、2015年4月1日以前にインドに事業所や恒久的施設を設けていないFPIに対し、MATの規定が適用されないことを明らかにした。

## GDPを8~8.5%と予測

インドのアーヴィンド・スプラマニアン首席経済顧問は、4月~6月の成長が7%であったにもかかわらず、正式な経済調査によるGDP成長予測を現財政年度は8~8.5%に据え置いた。スプラマニアン首席経済顧問は、石油や商品価格の下落により政府の歳入は増加し、補助金交付は減少したと述べている。つまり、間接税の純税額は実質的に増加している。

## 工業生産は徐々に増加の見込み

工業生産は徐々に回復する見込み。安定した基盤により今月は急上昇したにもかかわらず、消費は依然として芳しくない。1. 低インフレ、2. 以前行った金融緩和の浸透および25bpsの金利再引き下げへの期待、そして3. 安定した原油価格が、消費者感情の起爆剤となる可能性はある。消費回復は、都市主導になるとみられているが、これは不確定なモンスーンにより、郊外の需要が落ち込む見込みのためである。投資回復は、財政年度末にもつれこむとみられている。政府による絞ったインフラ消費、投入原価の低下、既存プロジェクトに対する新プロジェクトの割合の増加、乗用車売上高、中型/大型商用車(MHVC)の売上高などの高頻度指標の伸びからも、投資の好転に期待が寄せられる。

## RBIと政府は、インド準備銀行の債券のFPIの制限の中期的枠組みを協議

インド準備銀行(RBI)のラグラム・ラジャン総裁は、債券における外国ポートフォリオ投資家(FPI)の制限の中期的枠組みについて、政府と協議中であると述べた。ラジャン総裁は金融政策ステートメントの中で、債券市場のどの部分が中期的にFPIによって構成されるかの目標も説明している。

ラジャン総裁はまた、半年ごとに制限は変更され、この変更は月次または四半期ごとに発表されると付け加えた。こうした制限は、ルピーに特定されるが、これは為替レートの動きによって左右されないためである。「この中期的枠組みの全体的な目標は、FPIがインド債券のレートに魅力を感じたにしても、われわれが設けた健全な制限内でFPIを市場発展に参加させることである」とラジャン総裁は述べている。

## RBIは、支払銀行設立に対する11行の申し込みを「原則的に」認可

「既存の枠組みに適切な変更を加えた後、現財政年度に民間の世界的な銀行を継続的に承認する組織を導入する。RBIは、小規模の銀行やその他の特別な銀行に認可を与える枠組みを作る。小規模企業、組織化されていないセクター、低収入世帯、農家、労働移民などの振り込みや送金ニーズに応える、ニッチなニーズに対応する特別な銀行、地方の銀行、支払銀行などを検討する」とアルン・ジェートリー財務相は述べている。

「支払銀行は地方の人々にも手を差し伸べている。支払銀行は、銀行システムにより多くのお金を流入させことになる。SBIのような大きな銀行も含め、さまざまな銀行が地方対応を試みており、この試みには支払銀行が欠かせない」とジェートリー財務相は語った。

## CPIとインフレ

7月のCPIは前年比3.8%となり、ここ何年かにおける最低値となった。インフレ測定値は6月の5.4%や市場の予測値である4.4%を下回った。食品、燃料、コア価格モーメンタムが全体的に低迷し、ヘッドラインレートを押し下げている。コアCPIは、6月の4.83%から4.34%へと低下。価格モーメンタム(前月比0.57%)は、6月の1.15%からやや弱まった。特に食品など6月に見られた価格圧力の多くは、回復。野菜以外では、豆類、穀類、たんぱく質を基本とする品目が食品指標を押し下げている。

今カリフ期に多くの面積を割いて豆類を蒔いたことで、価格の上昇が抑えられる見込みである。輸送・通信指標は、8月に発表された石油とディーゼルの価格を反映。ヘルス、レクリエーション、家庭サービスなどのサービスは、横ばいとなっている。

## Disclaimers and Disclosures

UTI International (Singapore) Private Limited (以下「UTI IS」)は、シンガポール金融庁(MAS)の規制を受け、資本市場サービスライセンスを保有し、ファンドマネジメントに関する規制対象業務を行っています。UTI IS は、このようなレポートの完全性や正確性に関して、一切の責任を負わないものとします。レポートは、株式のオファーに相当するものではなく、推奨、意見の主張、広告でもありません。ステートメントの内容は、特別な目的、金融機関やこのステートメントを受け取る特定の人のための特別なニーズに関係なく、情報提供のみを目的としており、そのような人には、ファンドの株式の購入契約を行う前に、金融アドバイザーからのアドバイスを求めることをお勧めします。もしそのような人がそのようなことを行わなかった場合、その人はその投資が自分に適しているかどうかを慎重に考慮すべきです。ここで述べられているファンドの過去の業績は、将来的な業績を示唆しているとは限りません。

ここで説明されているファンドは、シンガポール金融庁(以下「MAS」)によって認められた制限された計画であり、機関投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)および適格投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)にのみ提供または販売されています。免責金融アドバイザーとして、UTI IS は、FAA の下、規則 33、34、35、36 または金融アドバイザー法(以下「FAR」)の他の規則に従って、「機関投資家」「適格投資家」「海外投資家」「シンガポール国民ではない」「シンガポール永住者ではない」「シンガポール国民または永住者に全てまたは一部依存していない」シンガポール国外に住む個人、またその他の例としては、シンガポールに商業拠点を置いていないまたは物理的に所在していない人)に関して対象となる免責に基づくことができます。

[www.utifunds.com](http://www.utifunds.com) にアクセスしてください